

高田道見 （一八六六—一九三三） 僧侶。安政五年十一月九日備後國生れ、大正十二年歿（一八六六—一九三三）。明治十六年上京、本郷駒込の吉祥寺山内梅檀林學寮に入る。十八年以降芝二田の青松寺住職北野元峰に随侍。一二十七年『通俗佛教新聞』を創刊主宰。瑞應寺住持。

著書に、『教義問辨・第壹編』（明治一十五年十月）、一二十七年『明教社』、

『通俗鏡の由來』（明治一二十七年二月十一日國母社）、『追善の心得』

（明治一二十七年六月二十一日國母社）、『塔婆の由來』（内題『通俗

塔婆の由來』明治一十九年六月二十七日國母社）、『通俗佛教便覧』

（國崎義共編、明治一十九年二月十五日佛教館）、『追善之鑑』（明

治一十四年四月一日佛教館）、『漢和兩譯大乘起信論』（和譯、大正二年

二月十五日佛教館）等。

